

コギク 9月彼岸出荷作型では露地電照を行うと 需要期に安定して出荷できる

農業総合センター園芸研究所

近年、コギク露地栽培では温暖化や気象の年次変動の拡大により開花が不安定になり、盆や彼岸の需要期に出荷できない事例が増えています。9月咲きコギク品種で露地電照栽培を行うと、自然開花期が彼岸前の品種は開花の年次変動を抑さえ、彼岸需要期に安定して出荷できるようになります。

電照で彼岸出荷が可能に

9月咲きコギク品種では6/15から7/26まで暗期中断4時間の露地電照を行うと、自然開花期が彼岸前の品種ではより彼岸近くに開花させることができます(図1)。

また、これらの品種では、各品種の開花期の早晩に合わせて電照期間(消灯日)を調整すれば、彼岸需要期出荷ができるようになります。

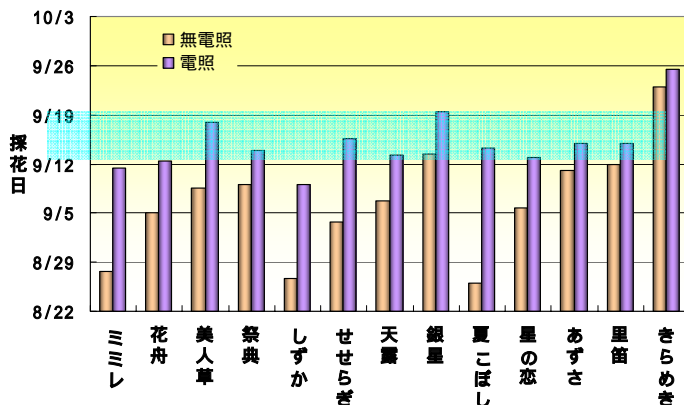


図1 電照による開花日の影響

定植5/21、電照期間は6/15~7/26、暗期中断4時間(22:00~2:00)、10m²当たり電球1コ、青部分は需要期。

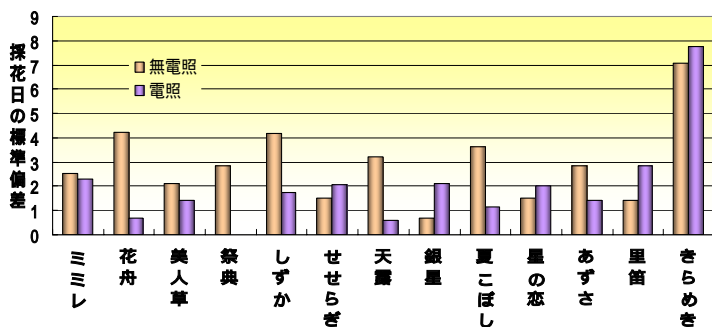


図2 電照による開花日安定の効果

電照で開花時期が安定

多くの品種では、露地電照栽培を行うと採花日の標準偏差が小さくなり、開花時期の年次変動が抑えられて需要期に安定して出荷することができるようになります(図2)。

切り花品質への影響

電照を行うと切り花長が長くなります(図3)。ただし、ミミレのように切り花長が長くなりすぎる品種は、定植を遅らせるなど草丈を調節する対策が必要です。

コギクの品質に草姿(花の付き方)があります。電照を行うと草姿が改善される品種もあれば、やや悪くなる品種もあります。しかし、草姿が悪くなくても商品性に問題が生じるほどではありません。

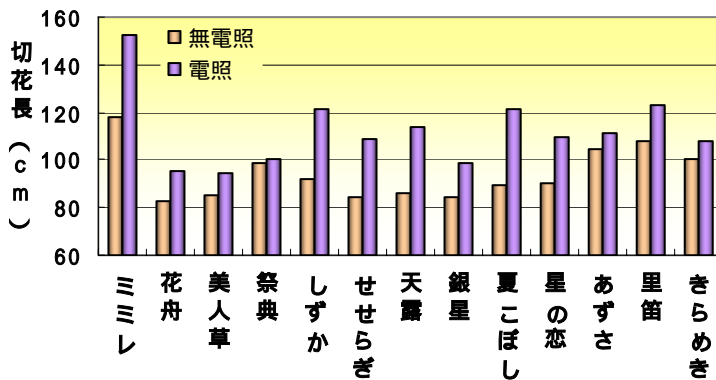


図3 電照による切り花長への影響